

宝船展 2019 @MOMAS オープンスタジオ 創造の海へ

2019年1月16日(水)～20日(日) 埼玉県立近代美術館地階・展示室1

今年は37組の出展作品をはじめ、誰でも自由に創作体験ができる「オープンスタジオ」や、井戸の底をのぞきながら各々の夢の種を交換する「ラウンドテーブル」が登場。ミニ風車制作や農民踊り、本音会議などのライブパフォーマンスも。5日間で1,000人を超える来場者で賑わい、子どもからお年寄りまでアートを中心に交流を楽しんでいました。

12年目を迎えるSMFでは、引き続き県内の美術館と連携しながら、分野・領域を超えて、既成のジャンルにとらわれず、さまざまなアートを通じて多くの人がつながっていくためのプラットフォーム作りを目指しています。次回の宝船展もどんな作品に出会えるか楽しみです。



来場者や出展者の開運を願うアーティストたちがデザインしたおみくじと告知ポスター。



▲白いペンキを塗った板を8枚×3面つなぎ、オープンスタジオを設置。図工室をイメージして自由に創作できるスペースに。



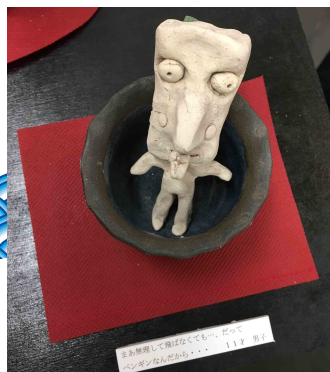
▲約4mの天井に届きそうな六角堂。お米の輸送に使用していたパレットを材料に、展示後、沃土プラントとして見沼田んぼで再生されるそう。



▲蕨市立北小学校3年生87名で製作した「巨大アートに挑戦《自然豊かな未来の蕨》」。鑑賞と制作が一体となったプログラム「MOMASの扉」ワークショップの記録とともに。



▲日本庭園協会埼玉県支部による「向月台」。糸を使って寸法を出し、積み上げているとのこと。



▲「まあ無理して飛ばなくても…、だってペンギンなんだから…(11才男子)」



▲106歳になるという来場者と箱獅子舞で交流するアーティスト。



▲紙と自由に戯れる、遊ぶ「クシャモゾ・オノマトペ」。ダイブする子どもや身にまとう方も。



▲実家が養豚場であることから、豚をモチーフに製作活動続ける小野養豚人。



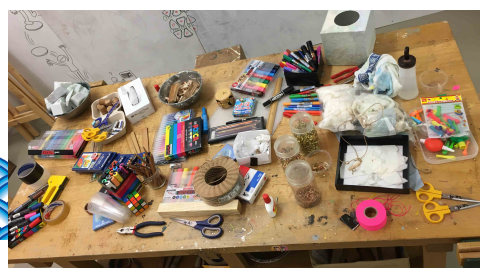
▲出展作品「月のみつめる先」を大事に抱える女の子。



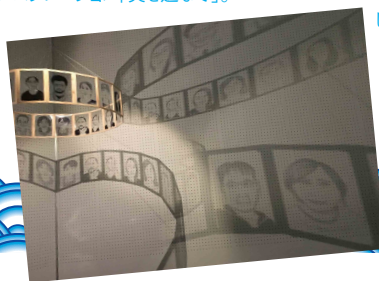
▲来場者が自由にレシートを貼ることができるインスタレーション「美を逆なで」。



▲大学生アーティストの作品「座ってごらんな菜」。実家の作業場で余った素材を利用したとのこと。ゆくゆくは製品化!?



◀オープンスタジオの作業台。出展者と美術の時間に万力にももてぶつけた話で盛り上がる。イーゼルに糸を張って即席ギターを奏でるアーティストも。



◀多様な人々の似顔絵がぐるぐるまわる「Social Capitalism」。